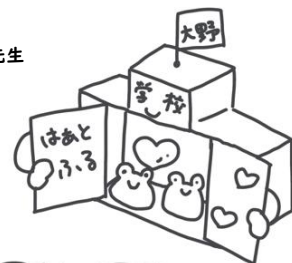




## 校内教育支援センターについて

画：外赤先生



校内支援センター

一昨年度から本校には校内教育支援センターが開設されています（市内10数か所に設置）。今年度も本校には2名の支援員が配置され、様々な理由で教室に入ることができない生徒への対応を「校内教育支援センター（通称『はあとふる』）」で行います。そこでは当該生徒の悩みや不安への教育相談、学習面のサポート等を行っていきます。ただし、独自の授業を行うものではないので、その点についてはご留意ください。支援員等は以下のとおりです。何かご不明な点がありましたら、校内教育支援センターコーディネーターの山崎か教頭へいつでもご連絡ください。

校内教育支援センターコーディネーター	教諭	山崎 誠
//	支援員	相川 加津美（週3日～4日 5時間程度勤務）
//	支援員	山口 直子（週5日 7時間勤務）

## 校長のひと一言①～今年度も、私のとりとめもないひとり言をつぶやいていきます～

毎年、ある企業が主催している「サラッと一句！わたしの川柳コンクール」があります。以前はサラリーマン川柳と言っていました。毎年1月下旬に優秀作品が発表されて、ベスト10の投票が始まります。ベスト10はその年の5月に発表されるのですが、私はいつも楽しみにしています。今年はどんな作品が選出されるのでしょうか。

昨年度の作品も思わず笑ってしまう作品が数多くありました。私のお気に入りの作品は「AIの使い方 AIに聞く」「久しぶり笑顔出るが名前出ず」「何食べたい？言った料理は出てこない」。この3句は私の気持ちを代弁してくれているかのようでした。

「AIの使い方 AIに聞く」。今年度当初、AIについての校内研修を行いました。必要な情報を入力すると、あっという間に授業に活用できる資料等が完成します。これからの授業にAIはどんどん活用されていくでしょう。アナログの私は、そのような話題にはなかなかついていけません。それこそ、活用の仕方を「AI」に聞きたい気分です。

「久しぶり笑顔出るが名前出ず」。昔一緒に働いた同僚と研修会などで偶然再会した際、顔ははっきり覚えているのに、肝心の名前だけが出てこない。相手と会話を合わせながらも、頭の中では「ああでもない、こうでもない」と名前を必死に手繰（たぐ）り寄せますが、焦れば焦るほど空回りするばかりです。研修会が終わってふとした瞬間に「ああ、〇〇さんだ！」と閃（ひらめ）くことがよくあり、そのたびに情けないやら、ほっとするやらで、苦笑いする羽目になります。

「何食べたい？言った料理は出てこない」。帰省で帰ってきた娘たちが妻にリクエストした料理は、必ずと言っていいほど食卓に並びます。それが娘たちが去り、妻と二人だけに戻ると「あるものでいい？」と妻は言い出します。満面の笑みで私のリクエストに答えてくれた若かりし頃の妻はどこへやら・・・彼女の料理への情熱は、今は「娘」という名の限定メニューになっているようです。

随分昔の作品ですが、「年ごとにテレビも髪も薄型に」という川柳が、年齢を重ねるたびに身に染みんでいます（笑）